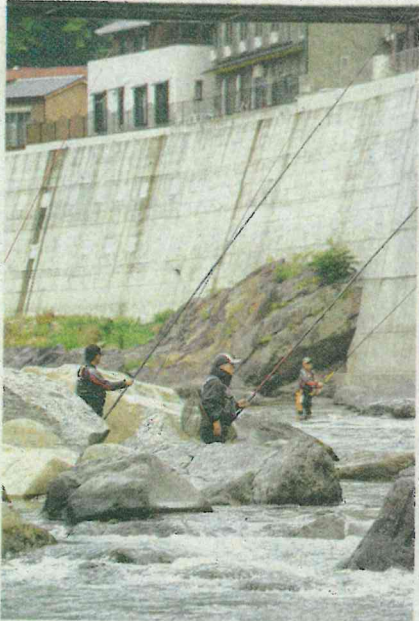




友釣りて掛けたアユを豪快に取り込む釣り人(きょう午前、日之影町の五ヶ瀬川)



アユ漁が解禁された五ヶ瀬川で釣りを楽しむ愛好家たち(きょう午前、日之影町役場前)

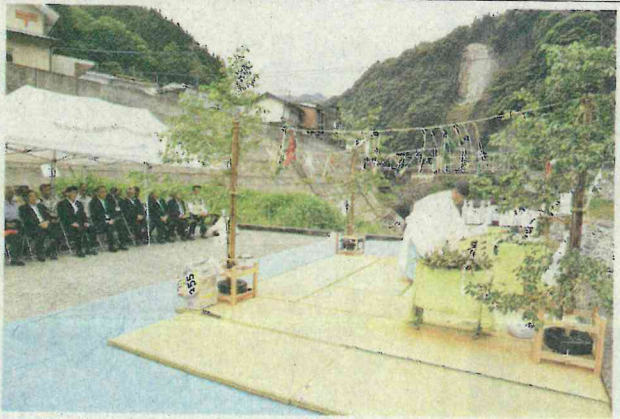
きょうアユ漁解禁

下流域は厳しい釣果 五ヶ瀬川水系

延岡市の五ヶ瀬川水系と門川町の五十鈴川水系で、今年のアユ漁が解禁され、県内外のアユ釣りファンが早朝から川に入った。ただ、五ヶ瀬川水系では事前の調査でアユの遡上(さきよう)が少なく型も小さいと伝わっていたことから、釣り人の数も例年よりも少なく、下流の北方町は厳しい状況。上流の日之影町役場周辺の釣果は下流域よりも好調だった。

(7面に写真特集) 仲間と3人で同役場前で釣っていた福岡県八女市の30代男性は「3時間で10匹ほど。水温が上がってくれば、きょうだけで40〜50匹はいけるのでは。アユは釣っても食べても最高です」と笑顔を見せていた。厳しかったのは北方町周辺。同町八峡には夜明けから3〜4人の釣り人。午前9時ごろまでアユの姿は見られず。宮崎市から毎年訪れているという60代の男性は「去年は解禁日に40匹ぐらい釣れたが、今年はゼロ。10匹ぐらいの群れは見たのでアユはいるようだ、こんな年は初めて」。近くにいた延岡市塩浜町の50代男性は「上からは小さいアユが跳ねるのを見るぐらい。コケを食べた跡がないので個体数が少ないのでは。解禁日は2桁釣れるのに、今年は厳しい」。2人も残念そうにさおを畳んだ。

また、大分市の70代男性も北方町の瀬で頑張ったが、同9時ごろまでの釣果ゼロ。曇りをよも太陽が照っている方がアユ釣りにいい。昼からの挽回に期待します」と上流へ移動した。



アユ漁シーズンを前に行われた「日之影町五ヶ瀬川安全祈願祭」

九州南部が梅雨入り

気象庁は31日午後、九州南部地方が梅雨入りし、たとみられると発表した。昨年と比べて5日早く、平年と同じとい

禁日から間もなくよりも、夏場から秋口にかけて増えてくることに期待したい」としている。五ヶ瀬川、五十鈴川水系のほか、県北の河川では、北川水系と梶子川水系、耳川水系は10日にアユ漁が解禁される。